

天文学とプラネタリウム

～ 学生とプラネの協力の可能性について ～

準会員（東京大学大学院理学系研究科） 高梨直紘
平松正顕



【はじめに】

「天文学とプラネタリウム」略称天プラ。天プラは天文学の普及に興味を持つ学生と、プラネタリウムに代表される科学系教育施設関係者による緩やかな連携です。主にメーリングリストを通じて情報交換や様々なアプローチでの天文普及の形を模索しています。

天プラが目指すのは、既存の天文学普及の仕組みとはまた違った視点、立場からの天文学の普及です。学生ならではのアイデア、あるいは科学系教育施設ならではのノウハウを活かし、これまでにはない形の天文学の普及を探っています。

【現状認識】

人々と宇宙がつながる経路には、大きく分けて2つの道があると思われます。それは、星座や神話に代表されるような感性的理解、そして天文学に代表される理性的理解です。両者は明確に分離できるものでもありませんし、ましてや上下関係にあるものでもありません。それぞれに優れた楽しみ方があると思います。しかし、残念ながら、天文学の楽しみ方は星座や神話の楽しみに比べ、あまり認知されていないように私たちには思えます。天文学の楽しみ方をもっとわかりやすい形で人々に伝えることが、私たちの目的にも通っています。では、いったいどのような方法が良いのでしょうか。



この図は、天文学と一般の人々がどのようなつながりを持っているかを表した模式図です。矢印の太さは情報量(=質×量)を表していると見て下さい。人々に多くの情報量を提供しているのはTV、新聞に代表されるようなマスメディアです。質はいまいちですが、量は他を圧倒します。一方で、プラネタリウムに代表される科学系教育施設は質の良い情報を仕入れ、人々に提供しています。しかし、基本的には施設に出向いてくる人にしか情報を提供できません。天文学を専攻する学生には、研究活動を通じて高い質の情報が入ってきます。ただ、残念ながら人々にそれらの情報を提供できる機会は皆無といって良いでしょう。

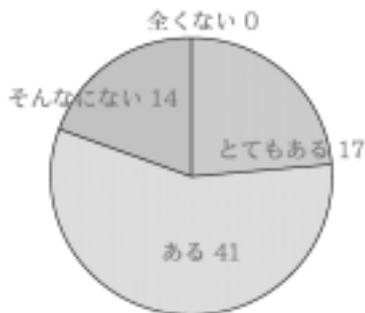
ここで私たちが注目したのは、横の連携です。特に、学生と教育系科学施設の連携は、現状ではごく一部に限られていると言えます。この横の連携を確立できれば、お互いの不足しているところを補い、効率的な普及ができるのではないのでしょうか。

こう考えた私たちは、まずは周りの学生がどのように考えているのかを知るべく、アンケート調査を行うことにしました。

【学生向けアンケート】

このアンケートは天文天体物理若手の会 2003 年度夏の学校にて行いました。天文学、物理学を専攻する

修士・博士課程の学生が対象です。有効回答数は73(会員数約300)、アンケート実施場所は主に「天文学と社会」分科会会場です。紙面の関係で一部だけ抜粋しての紹介となりますが、詳細はWEBに掲載してありますのでそちらをご覧ください。順番に説明していきましょう。



「天文学の広報普及に興味はありますか？」この設問に対し、8割近い学生は興味があると回答しています。全体としては、学生の興味は決して低くないようです。しかし、他の設問で明らかとなるのですが、実際になにか活動をおこなっている学生はとなると、急激に割合は低下します。多くの学生は、ほどほどのやる気はあれど、なにをすれば良いのかわからない、といった状況のようです。



そのような学生に対し、「プラネタリウムから協力を申し込まれたら受けますか？」と聞いた結果が上の図です。学生は、プラネタリウムとの協力に対してはあまり抵抗をもっていないことがわかります。実際に活動を行っている事例が少ないのは、単に学生とプラネタリウムが交流する場がないに過ぎないように思えます。



では、学生はどの程度プラネタリウムに親しんでいるものなのでしょうか。「ここ3年間でプラネタリウムに何回くらい行きましたか？」この設問の結果が上の図です。半数以上の学生は、足が遠ざかっていることがわかります。その理由をまとめれば、“夢とロマンあふれる場所だが、一度行けば十分”というものでした。このように考えている学生が、研究者になり天文学を牽引していく・・・これはプラネタリウムに関係するみなさんにもあまり良い状況ではないのでしょうか？私たちは、この状況をとてままずいと感じています。

【我々の提案】

以上のアンケート結果をもって私たちが提案したいのは、もっとお互いに交流しませんか、ということです。私たち学生と科学系普及施設が協力することによって、これまでにはない形で天文学の楽しみを一般の方々へ提供できるのではないかと考えています。天プラでは、色々な企画を提案、実行していきたいと考えています。その一例をご紹介します。

- ・専門性を活かしたミニ講演会
- ・館内展示の提案
- ・オリジナル天文グッズの作成、頒布
- ・学生だからこそ行ける場所への番組取材
- ・海外番組の翻訳
- ・観測所見学ツアーの案内役
- ・番組素材(画像、動画など)の集約、提供
- ・各館会報への記事の投稿

紙面の関係でここでは詳しく触れることができませんが、いくつかの計画は既に具体的に動き出しています。詳細はWEBを参照してください。

私たちは、天文学に興味を持つ方とはもちろん、天文学にはそれほど興味がないという方とも積極的に協力したいと考えています。星座、神話、天文学、その他様々なチャンネルを人々に提供し、様々な宇宙の楽しみ方に触れてもらうことが、結局のところ私たち学生にとって重要な天文学の発展にも寄与するのではないか、このように私たちは考えています。

最初にも触れましたが、天プラではメーリングリストを中心に活動を行っています。興味をお持ちでしたら、ぜひ参加して学生が何を考えているのかを覗いてみて下さい(個人としての参加で結構です)。

「天文学とプラネタリウム」WEB Site
<http://www.ioa.s.u-tokyo.ac.jp/~takanashi/tenpla/>